

令和4年度 退院調整に関する実態調査報告（概要版）

本調査の結果について、ご報告させていただきます。

1 調査の目的

本調査は、市内居宅介護支援事業所に所属するケアマネジャー対象のアンケート調査で、退院調整の状況について把握することを目的としています。よこはま保健医療プラン2018では、医療・介護が必要な場面に応じて、患者情報をスムーズに共有するための仕組みを構築する施策の指標として、本調査を参考に「退院調整実施率」が定められています。

あわせて、「入院・退院サポートマップ」「介護職のための看取り期の在宅療養サポートマップ」等についても調査し、連携ツールの認知度や活用状況について把握する機会としています。

2 調査の概要

- (1) 調査対象者
 - ・市内居宅介護支援事業所 867 か所に勤務するケアマネジャー約 3,200 人
- (2) 調査の方法
 - ・郵送にて市内居宅介護支援事業所 867 か所へ調査票を送付。無記名方式で回答、事業所単位で回収。
- (3) 調査対象期間
 - ・令和4年9月の1か月間
- (4) 回収結果
 - ・回答事業所数 555 か所／867 か所（回収率 64.0%）
 - ・調査票回収数（回答ケアマネジャー数）1,855 件 有効回答数 1,855 件

3 調査結果

- (1) ケアマネジャーの状況
 - ・基礎資格は介護福祉士 76.2%、社会福祉士 11.2%で、87.3%が福祉系資格でした。経験年数では5～10年未満が最多で 30.7%を占めました。増減傾向では、5年未満が 19.7%と過去データと比較して減少傾向、15年以上が 21.6%で増加傾向でした。
 - ・担当利用者数は 31～40 人が 34.1%で最多、次いで 41～50 人で 30.2%と、過去データと同様の傾向でしたが、平均担当利用者数は 34.99 人と年々増加しており、業務負担の増大が懸念されます。
- (2) 利用者の状況
 - ・本調査に回答したケアマネジャーの担当利用者総数は 64,906 人で要介護者 1～3 相当の対象者が多い傾向を示しました。この背景には、予防プラン対象（要支援 1～2）でサービス利用に至らない認定者がいること、入院入所対象（要介護 4～5）は在宅のケアマネジメントの対象にならないことから、実態を反映した分布と考えられます。
- (3) 退院調整状況
 - ・退院調整対象者 1,091 人の年齢は 65 歳以上が 94.2%を占め、75 歳以上でも全体の 77.7%と後期高齢者が大半でした。病院等への情報提供方法は、情報共有シートを持参・FAX・郵送など書面提供が 67.8%でした。
 - ・病院からの退院支援連絡ありの割合は 80.2%と、8割を維持しています。
- (4) 在宅療養支援に関する各種ツール認知度
 - ・各種ツールの認知度は年々増加し、「入院・退院サポートマップ」では9割を超えています。
 - ・経験年数では5年以上のケアマネジャーで認知度が高く、業務経験と関係していることがうかがえます。

4 その他

「入院・退院サポートマップ」をはじめとした退院調整をスムーズにするための情報共有ツールは、本市のホームページからダウンロードできます。ぜひご活用ください。

URL:<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/zaitaku/taiinchouseitool.html>

<担当>

医療局地域医療課 横山、橋村、宗安

電話番号 045-671-2444

E-mail ir-zaitakuiryo@city.yokohama.jp